

修学旅行でクラス
メイトたちと花火
大会へやってきた
幼馴染の二人 途
中ではぐれたこと
をきっかけに……

この日は予定されていた修学旅行の日だ。夏休み明けに行われる。

バスに乗ってとなり街のはずれのキャンプ場までレクリエーションへ来た。

夜になればバーベキュー場所の横にある広場にて花火大会をする予定である。今はまだ夕方。夏の終わり。

校舎の駐車場にエンジン音のかかったバスが停まっている・・・

幼馴染のヨウタとコハネはこの日を楽しみにしていた。

学生の階段を上がり勉強に部活に忙しいが、

少しずつ大人へと成長していく過程。

• • • • •

旅行当日から少し前のこと・・・・・・・・。

少しずつ互いの妙な距離感は縮まっ
ているように心のどこかで感じていた。

「おいヨウタ！！！！こないだキャッチ
ボールしたときに、俺さ、ひじ痛めちゃ
ってよーっ！！」

「えっ！？」

ヨウタはミツルの声に振り向く。学校の廊下の上。

「そりゃ最悪だなっ！！！！ははっ」

あと一週間後に控えた修学旅行。

皆は心弾ませている。

学生生活もこれで最後。言葉にしづらいような感覚が学生たちに渦巻く。

夕方になった。空はほぼ暗い。
車道の脇、細長く工場跡まで続く歩道。

右斜めはるか後方には放課後を過ぎた
学校。

短かめの制服のスカートを穿いたコハ
ネは手を繋ぎ、体をあずけてもたれかか
るようにヨウタと歩いていた。
イチャイチャしている。

「今日はどこ行く??」

まだ二人は純粹な幼馴染。
何度もこうして一緒に下校しているが、
ゲームセンターやカラオケに行ったり
して遊んでいるだけ。

しかしコハネの胸は、

チラッとヨウタが斜めを見るとこんも
り膨らんでいるくらい成長している。

二人は工場跡近くまで行ってコンビニで駄菓子でも買って夜が更けるまで遊ぶつもりであった。

・・・・・・・・。

汚れた白いコンクリート。

欠け落ちたガレージのギザギザ屋根が夜空を少し隠している。

空には月が浮かんで輝いている。

二人はチョコレートをかじりながらぼんやりと修学旅行のことについて話していた。

「バスでどれくらいかかるのかな??」

「・・・・・・・・センコーが言ってたけど、

結構遠いらしいぜ」

「花火大会・・・楽しそうだね」

「俺はバーベキューが楽しみだな」

つい先日、ヨウタのクラスメイトの男女二人が付き合っていたということが判明し、仲間内の中で大盛り上がりした最近。

ちなみにヨウタとコハネは二つ離れた
クラスである。

クラスメイトたちの恋愛話。

クラスは明るくほんのり大人な空気感
に包まれている。

(体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました)